

科目名	日本語表現		担当者	井筒 満	
コース・学年	2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	この授業の目的は、「日本語基礎」（一年）で身につけた力をさらに高め、就職試験や編入試験に合格できるような文章力を育成することです。志望動機文・エントリーシート・小論文などの書き方を具体的に指導していきます。				
授業の準備について	授業で提示された課題は必ず提出して添削を受けるようにして下さい。積極的に取り組まないと、試験に合格できるような力は身につけません。				
授業内容					
1	わかりやすい説明文の基本 — (概要→詳細→まとめ) ①				
2	わかりやすい説明文の基本 — (概要→詳細→まとめ) ②				
3	志望動機文・エントリーシートの書き方の基本				
4	志望動機文・エントリーシートを書く準備 — 自分（の体験・学習体験）を書く				
5	志望動機文・エントリーシートを書く準備 — 利用できる資料・志望先の情報の整理				
6	志望動機文・エントリーシートを書く				
7	志望動機文・エントリーシートを書く				
8	小論文の書き方の基本				
9	小論文を書く準備 — 文章の読み取り方・要約の仕方の基本				
10	小論文を書く準備 — アウトラインの抽出				
11	小論文を書く準備 — 資料・データの活用方法				
12	小論文演習／就職試験問題演習①				
13	小論文演習／就職試験問題演習②				
14	小論文演習／就職試験問題演習③				
15	まとめ				
教科書	プリント配布				
評価方法	出席、30%、平常点（課題提出）30%、期末テスト40%				
特記事項					

科目名	日本文化 I		担当者	稲垣 智花	
コース・学年	1 - 2 年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>国際化社会といわれる現代、海外で勉強したり生活したりする機会は、以前よりも飛躍的に増えています。国内においても、外国から来た人に接する機会は、これから先、ますます増えていくことでしょう。</p> <p>しかし、いざ日本の文化や伝統や風習について尋ねられたとき、みなさんはその問いにきちんと答えることができるだけの正しい知識を持っているのでしょうか。「テレビで」ではなく歌舞伎を観たり、実際にお花を生けたりしたことがあるのでしょうか。</p> <p>この授業では、「日本文化を知る」ことをテーマに、ビデオを観たり実際に体験したりしながら、日本の文化について多角的に学んでいきます。この授業を通して、「日本文化とは何か」を自分なりに体得してほしいと思います。</p>				
授業の準備について	<p>前期は、各時代における文化の流れを追いながら、歌舞伎を中心に学んでいきます。いわゆる伝統文化と呼ばれるものの中でも、歌舞伎は特にメディアを通して報道されることの多い存在です。</p> <p>たとえば、歌舞伎役者に興味をもってみましょう。</p>				
授業内容					
1	日本の文化史・美術史概説				
2	奈良時代の文化				
3	平安時代の文化				
4	鎌倉時代の文化				
5	室町時代の文化				
6	安土桃山時代の文化				
7	江戸時代の文化				
8	歌舞伎の歴史となりたち				
9	歌舞伎役者への道				
10	歌舞伎の衣装と鬘				
11	歌舞伎座の一日				
12	体験学習①——歌舞伎の鑑賞（国立劇場・歌舞伎鑑賞教室）				
13	日本の風土と文化				
14	体験学習②——お花を生ける				
15	前期のまとめ				
教科書	<p>特に指定しません。</p> <p>必要に応じて、プリント類を配布します。</p>				
評価方法	<p>歌舞伎鑑賞教室への必須参加＋レポート 80%</p> <p>授業時小レポート 20%</p>				
特記事項	<p>劇場鑑賞・体験学習にかかる費用は不要です（国立劇場への交通費は自己負担）。</p> <p>体験学習は外部から講師を招いて行うので、都合により、日程が変更される場合があります。</p> <p>参考書は随時指示します。</p>				

科目名	日本文化Ⅱ		担当者	稲垣 智花	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>日本について興味や関心をもっている外国の人は、みなさんが日本人だとわかったら、自分の知らない日本の文化や伝統や風習について、尋ねてみたいときっと思うでしょう。そのとき、みなさんはその問いにきちんと答えることができるでしょうか。たとえば、能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）のような伝統芸能や、日本の古典文学として世界的に名高い『源氏物語』について、正しい知識を持っているでしょうか。この授業では、日本文化Ⅰから引きつづき、「日本文化を知る」ことをテーマに、ビデオを観たり実際に体験したりしながら、日本の文化について多角的に学んでいきます。この授業を通して、「日本文化とは何か」を自分なりに体得してほしいと思います。</p>				
授業の準備について	<p>後期は、さまざまな伝統芸能にふれながら、古典文学についても学んでいきます。伝統芸能や古典文学に関してメディアを通して報道される機会は、私たちが思っている以上に多いものです。新聞を読んだりニュースを見たりする際には、ふだんから意識して目を留めるようにしましょう。</p>				
授業内容					
1	日本の伝統芸能史概説				
2	伝統芸能としての能①				
3	伝統芸能としての能②				
4	伝統芸能としての狂言①				
5	伝統芸能としての狂言②				
6	伝統芸能としての文楽（人形浄瑠璃）				
7	文楽の歴史となりたち				
8	人形遣いと義太夫				
9	体験学習①——文楽の鑑賞（国立劇場・文楽鑑賞教室）				
10	『源氏物語』を知る①				
11	『源氏物語』を知る②				
12	『源氏物語絵巻』を知る				
13	茶道の歴史となりたち				
14	体験学習②——お茶を点てる				
15	後期のまとめ				
教科書	特に指定しません。 必要に応じて、プリント類を配布します。				
評価方法	文楽鑑賞教室への必須参加＋レポート 80% 授業時小レポート 20%				
特記事項	劇場鑑賞・体験学習にかかる費用は不要です（国立劇場への交通費は自己負担）。 体験学習は外部から講師を招いて行うので、都合により、日程が変更される場合があります。 参考書は随時指示します。				

科目名	哲学 I		担当者	柿崎 有美	
コース・学年	1 - 2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>二千五百年にも渡る長い歴史をもつ哲学ですが、「哲学とは何か」という基本的な問いに、一般的な解答はありません。なぜなら哲学は、自分自身を源泉として、生きている限り続けられる、壮大な実験だからです。出発点は常に自分にあります。</p> <p>この授業では、哲学の基本的概念や基礎用語を学びながら、代表的な哲学者の中心的思想を見てゆく中で、受講者それぞれの出発点を見定めることを目標としたいと考えています。</p>				
授業の準備について	毎回の授業内容を予定表（授業開始時に配布）で確認し、キーワードについて、自分なりのイメージを持って授業に臨んでください。				
授業内容					
1	オリエンテーション・グループ分け				
2	発表準備作業				
3	「哲学」の誕生：ソクラテスの「無知の知」				
4	「真理」の場所：プラトンのイデア論				
5	目的論的世界観：アリストテレスの世界観				
6	「私」の基盤はどこにあるか：デカルト「我思うゆえに我あり」				
7	「私」は何を知ることができるか①：カント「現象と物自体」				
8	「私」は何を知ることができるか②：ヘーゲルの「弁証法」				
9	「私」とは何か①神の問題：キルケゴール「実存と単独者」				
10	「私」とは何か②無神論：ニーチェ「神の死とニヒリズム」				
11	「私」とは何か③：フロイトのリビドー理論				
12	「私」はどう生きるか①：サルトル「実存は本質に先立つ」				
13	「私」はどう生きるか②：メルロ＝ポンティの身体論				
14	総論				
15	まとめ				
教科書	なし。プリントを配布。				
評価方法	提出物 40%、発表 20%、まとめの論述試験 40%				
特記事項					

科目名	哲学 II		担当者	柿崎 有美	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>この授業では、哲学上の基本的なテーマを取り上げ、どのようなことが哲学で考えられているのかを考察することによって、受講者それぞれが自分自身の哲学的視点を見つけることを目標とします。</p> <p>また、重要な哲学書を実際に手に取り、哲学書の読み方、哲学的な問いの立て方、論理の展開の仕方などを学んでいきます。</p>				
授業の準備について	毎回の授業内容を予定表（授業開始時に配布）で確認し、テーマについて、自分なりのイメージを持って授業に臨んでください。				
授業内容					
1	オリエンテーション・本選び				
2	時間論 1：社会的時間と内的時間				
3	時間論 2：宗教的時間概念（アウグスティヌスの時間論）				
4	時間論 3：フッサール、ハイデガーの時間論				
5	発表準備 1				
6	発表準備 2				
7	「恋愛」と「死」：プラトン				
8	「理性／心情」：デカルトとパスカル				
9	キリスト教の本質：キルケゴール				
10	「神」の不在：ニーチェ				
11	「欲望」と「私」：フロイト				
12	「自由」：サルトル				
13	「私」と「世界」①：カミュ				
14	「私」と「世界」②：メルロ＝ポンティ				
15	まとめ				
教科書	なし。プリントを配布				
評価方法	提出物 40%、発表 20%、まとめの論述試験 40%				
特記事項	この科目の受講にあたっては、できるだけ「哲学 I」を履修していることが望ましい。				

科目名	文学 I (神話)		担当者	稲葉 延子	
コース・学年	1-2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>「文学とは何か」を考える上で、まず、ギリシャ・ローマ神話を紐解き、後世の欧米文学作品や映像・絵画などの芸術作品への継承と影響について学びましょう。また翻案とは何かを考えることで、文学を再考することもできるでしょう。</p> <p>授業は、教科書で全体像をつかんだ上で、神話をモチーフにした映像を見ながら、ディスカッションを重ねていき、神話の中に文学の原型を見つけていきます。</p>				
授業の準備について	ギリシャ・ローマ神話の神々の名前がついた商品や店舗などを探しておきましょう。ディズニーの『ヘラクレス』を鑑賞しておいてください。				
授業内容					
1	ギリシャ・ローマ神話とは オリンポスの神々				
2	ゼウスとジュピター アフロディテとビーナス				
3	オイディプスからアンティゴネへの系譜				
4	オイディプスからアンティゴネへの系譜				
5	映画・演劇を通して、ギリシャ・ローマ神話を鑑賞する				
6	映画・演劇を通して、ギリシャ・ローマ神話を鑑賞する				
7	映画・演劇を通して、ギリシャ・ローマ神話を鑑賞する				
8	アポロン、アキレウス、イカロス、ヘラクレス、それぞれの物語				
9	ヘラ、メディア、カッサンドラ、パンドラ、それぞれの物語				
10	絵画を通して、ギリシャ・ローマ神話を鑑賞する				
11	絵画を通して、ギリシャ・ローマ神話を鑑賞する				
12	各人にとってのギリシャ・ローマ神話				
13	翻案の限界と可能性を考える 翻案から翻訳へ				
14	レポート提出				
15	レポート講評				
教科書	ギリシャ神話ロマネスク 創元社				
評価方法	レポート 60% 授業参加度 40%				
特記事項	「文学Ⅱ」で翻訳を学ぶと、自分の文学論が構築できます。継続履修が望ましいです。				

科目名	文学Ⅱ（翻訳）		担当者	稲葉 延子	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>「文学とは何か」を考える上で、日本文学の翻訳の現状を知ることから始めます。日本語固有と言われるオノマトペ表現や日本文化固有の事象は、どのように英訳、仏訳されているかを検証することで、英語やフランス語を学ぶ学生にとって、「翻訳とは何か」を考えることができるでしょう。また、教科書『翻訳夜話』の中で展開されている、村上春樹と柴田元幸の翻訳についての考え方や実践をたどりながら、各人の「翻訳論」を構築することが最終目標とする授業です。</p>				
授業の準備について	<p>英訳や仏訳のある日本文学作品を履修前に選び、夏季休暇中に読み始めておきましょう。選書に関しては、研究室に相談にきてください。</p>				
授業内容					
1	翻訳と翻案の違い				
2	西欧における日本文学作品の翻訳の現状 あざみ祭参加準備				
3	研究対象とする作品の選定 あざみ祭参加準備				
4	オノマトペ概論 あざみ祭参加準備				
5	翻訳で問題となる日本文化特有の事象とは				
6	翻訳の検証とディスカッション				
7	翻訳の検証とディスカッション				
8	翻訳の検証とディスカッション				
9	翻訳家の意見 村上春樹、柴田元幸の場合				
10	翻訳家の意見 村上春樹、柴田元幸の場合				
11	翻訳家の意見 村上春樹、柴田元幸の場合				
12	翻訳家の意見 村上春樹、柴田元幸の場合				
13	翻訳家の話を聞く				
14	レポート提出				
15	まとめ 意見交換				
教科書	翻訳夜話 文春新書				
評価方法	レポート60% 授業参加度40%				
特記事項	「文学Ⅰ」と連続しての履修を勧めます。あざみ祭参加予定。				

科目名	音楽 I		担当者	竹内 智子	
コース・学年	1 - 2 年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>音楽は、風土・歴史・文化・宗教などを反映して私たちの想像以上に多彩です。人は何を歌い継いできたのか―授業では鑑賞を多用して、さまざまに表現され継承されてきた音楽―特に人の声の流れを通史的に眺めながら、いくつかのテーマに沿って捉えその多様性を味わいます。そこで重要なのは、歴史を客観的に捉える姿勢と人間の異なる感性を理解する想像力を養い、人間性や異文化に対する洞察を深めることです。そして知識だけでは捉えきれない芸術の普遍性に触れたいと思います。</p>				
授業の準備について	逐次関連文献・CDなどを提示するので、授業準備とともに復習に用いて授業理解に役立ててください。				
授業内容					
1	導入：授業の概要				
2	アメリカの音楽：概論				
3	" :バラッドと賛美歌				
4	" : ガーシュインとコープランドの独自性				
5	社会と音楽：黒人奴隷の歴史とスピリチュアルの誕生				
6	" : キング牧師の公民権運動とスピリチュアルの力				
7	民族と音楽：アイルランド音楽のルーツ I : ヨーロッパ文化の基層・ケルト				
8	" : アイルランド音楽のルーツ II : ダンスと音楽				
9	" : 日本の音楽のルーツ				
10	文学と音楽：ルネサンス文化と音楽				
11	" : イギリスルネサンスの演劇と音楽				
12	宗教と音楽：キリスト教のヨーロッパ伝播とガリア聖歌・グレゴリオ聖歌				
13	" : キリスト教の日本伝播―キリシタン時代 I : 西洋との出会い				
14	" : キリスト教の日本伝播―キリシタン時代 II : 天正少年使節・オラシヨ				
15	まとめ				
教科書	逐次資料・楽譜などをプリントして配布します。				
評価方法	小レポート30%、期末テスト（出題告知・ノート持ち込み可）60%、平常点10%				
特記事項	毎回質問用紙を用意するので、授業理解に役立ててください。また、コンサートや関連催事・情報を逐次紹介します。				

科目名	音楽Ⅱ			担当者	鎌田 直純	
コース・学年	1－2年	必・選	選		期間・単位数	集中Ⅱ期・2
授業の目標	<p>私たちは、日常生活の中で言葉と音楽の関係を改めて意識することはあまりありませんが、古今東西、さまざまな形で言葉と音楽は深く関わり合っています。この講義は西洋音楽の歴史における、言葉と音楽の結びつきに焦点を当て、音楽の有り様を考察していくものです。</p>					
授業の準備について	<p>準備することはとくにありませんが、分かりにくかった事柄はメモをしておいて、どういふことでも授業内で質問をしてください。</p>					
授業内容						
1	ルネッサンスからバロックへ					
2	バロック音楽					
3	バロック音楽から古典主義へ					
4	モーツァルトのオペラ 1					
5	モーツァルトのオペラ 2					
6	古典主義からロマン主義へ					
7	ヴェルディのオペラ 1					
8	ヴェルディのオペラ 2					
9	プッチーニのオペラ					
10	ドイツの歌曲					
11	ヴァーグナーの楽劇					
12	ヴァーグナー以降					
13	フランスの近代歌曲					
14	近代から現代へ					
15	まとめ					
教科書	特になし。参考書は授業内で適宜紹介する。					
評価方法	平常点、試験またはレポートによる総合評価					
特記事項						

科目名	社会学 I		担当者	滝本 順子	
コース・学年	1 - 2 年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>「社会」について考えるのが社会学です。(たとえば、社会とは何か、社会で何が起きているのか、社会で何が問題になっているのか、社会はどのように変化しているのか、といった問いを考えることです。)本講義では、今日の日本がかかえる社会問題について考えます。さまざまな問題について考えることで、社会とはどういうものなのかということを想像し、社会の中でいかに暮らしていくのかということを考える想像力を身につけることを目指します。</p>				
授業の準備について	配布されたプリント、参考資料、ニュース、新聞などで予習、復習をしてください。				
授業内容					
1	社会学とは何か				
2	格差 (1) 格差社会の実態				
3	格差 (2) 戦後日本「一億総中流社会」の構造				
4	格差 (3) 格差社会日本①格差はなぜ拡大しているのか?				
5	格差 (4) 格差社会日本②格差社会への対応策				
6	ジェンダー(1)ジェンダーとは				
7	ジェンダー(2)男女共同参画社会				
8	ジェンダー(3)性にかかわる諸問題				
9	ジェンダー(4)イスラーム社会の女性				
10	家族(1)再生産の場としての家族				
11	家族(2)結婚				
12	家族(3)少子化				
13	福祉(1)高齢化				
14	福祉(2)社会保障				
15	前期のまとめ				
教科書	教科書は使用しません。				
評価方法	毎回の授業のコメント・感想 : 40%、期末試験 : 60%				
特記事項	授業ではプリントを配布します。参考資料は講義の中で適宜紹介します。				

科目名	社会学Ⅱ		担当者	滝本 順子	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>「社会」について考えるのが社会学です。(たとえば、社会とは何か、社会で何が起きているのか、社会で何が問題になっているのか、社会はどのように変化しているのか、といった問いを考えることです。)本講義では、ダイナミックに変化している現代社会の現状について学びます。社会で起きているさまざまな変化について考えることで、変化している社会の中でいかに暮らしていくのかということを考える想像力を身につけることを目指します。</p>				
授業の準備について	配布されたプリント、参考資料、ニュース、新聞などで予習、復習をしてください。				
授業内容					
1	現代社会論とは何か				
2	グローバル化(1) 国家とグローバル化				
3	グローバル化(2) 経済のグローバル化				
4	グローバル化(3) 国境を超える人の移動①				
5	グローバル化(4) 国境を超える人の移動②				
6	エスニシティ(1) エスニック紛争				
7	エスニシティ(2) 難民				
8	エスニシティ(3) 日本社会の外国人住民				
9	環境問題				
10	NGOとNPO(1) NGO/NPOとは				
11	NGOとNPO(2) NGO/NPOの問題点・課題				
12	メディア(1) マス・メディア				
13	メディア(2) メディアの変容①インターネット				
14	メディア(3) メディアの変容②ケータイ				
15	後期のまとめ				
教科書	教科書は使用しません。				
評価方法	毎回の授業のコメント・感想：40%、期末試験：60%				
特記事項	授業ではプリントを配布します。参考資料は講義の中で適宜紹介します。				

科目名	教育学 I		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	1 - 2 年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>教育の理念や、教育史を視野に入れながら、教育学の基礎的な知識を研究する。内容は、(1)学力とは何か、(2)どのように評価するのか、(3)学校や学級経営(4)現在の教育改革(5)学校の機能や役割などである。</p>				
授業の準備について	<p>教育に関する新聞記事やテレビ報道等に日頃から注目し目を通すとともに、自己の小学校から高校に至るまでに見聞し、また経験した生徒指導の案件を思い出し、整理をしておくことが望ましい。</p>				
授業内容					
1	教育 — 教育学とは何か				
2	近代教育史 — 学校教育の変遷				
3	今日の教育課題				
4	学力とは何か — 学力論争				
5	カリキュラム — 開発、改善と方法				
6	授業について — 計画、実施、評価				
7	学習評価について — 変遷と内容				
8	生徒指導とは何か — 意義、組織、計画、方法				
9	特色ある学校づくり				
10	学校・学級経営について				
11	学校運営のための組織と運営				
12	学校制度と教育行政—文部科学省と教育委員会				
13	教育関連法規の研究				
14	教師とは何か — 過去、現在、未来				
15	まとめ				
教科書	学芸図書「教育原理」				
評価方法	テスト・レポート・授業への参加姿勢と出席状況による総合評価				
特記事項	特になし				

科目名	教育学Ⅱ		担当者	阿部 侃壽	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>集団や社会の一員として正しく振る舞うことができない生徒が現在問題となっている。また、集団の中で自信をもって行動できない、セルフエスティームの低い生徒の存在も指摘されている。このような現状を踏まえ、集団生活を営み他者との良好な関係を結びながら、それを土台として自己を形成する基盤の特別活動のありかたについて研究する。さらに、教育課程について、その定義、類型（経験カリキュラムと教科カリキュラム）、特別活動の指導計画の編成原理を研究し、立案することも考えてみたい。</p>				
授業の準備について	<p>児童・生徒の問題行動等の報道に、日頃から注目するとともに、自己の経験、見聞を整理しておくことが望ましい。</p>				
授業内容					
1	特別活動とは何か―教育課程における位置とその重要性				
2	特別活動の目標と内容				
3	特別活動の実際(1)―学級活動				
4	特別活動の実際(2)―生徒会活動				
5	特別活動の実際(3)―クラブ活動				
6	特別活動の実際(4)―学校行事①：儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事				
7	特別活動の実際(5)―学校行事②：旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事				
8	教育課程編成論(1)―教育課程とは何か				
9	教育課程編成論(2)―学習指導要領について				
10	教育課程編成論(3)―代表的な編成の原理				
11	教育課程編成論(4)―学校を基盤とした教育課程開発				
12	特別活動の指導と計画のための教育課程編成				
13	特別活動の今日的課題(1)―新学習指導要領と特別活動				
14	特別活動の今日的課題(2)―キャリア教育				
15	まとめ・反省				
教科書	なし				
評価方法	授業中の提出物、意見発表、出席等を総合的に評価する。				
特記事項	特になし				

科目名	法学Ⅰ（日本国憲法）		担当者	井川 昭弘	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>「社会あるところに法あり」ということわざがありますが、私たちは好むと好まざるとに関わらず社会生活を営み、そこには法という一定のルールが存在しています。この授業では、国家という社会における一番重要な法である憲法について、その大筋を学びます。</p> <p>私たちの日本国憲法は施行後60年あまりたち、憲法をめぐる様々な論議がなされ、いくつかの改憲案も出されています。憲法が不変の法でない事は確かですが、しかし憲法が目指すべき目的や価値が何であるか自覚され、またそれが正しいものでなければならないでしょう。この授業では現行の日本国憲法の大枠を人権論を中心に学びます。また同時に日本国憲法の将来についても考えてみたいと思います。具体的問題を手がかりに、その背後にある法という独特な抽象的存在を理解すると同時に、私たちの社会を動かしている制度的存在への感受性を磨き、社会科学的なものの見方を学ぶことを目標にしたいと思います。</p>				
授業の準備について	<p>毎回、教科書の該当箇所には事前に目を通して授業に参加することを希望します。また今年度は分担しての発表、討論の時間も盛り込みたいと考えています。</p>				
授業内容					
1	はじめに 法と法学について				
2	日本国憲法の成立				
3	「国民主権」① 定住外国人と未成年者の参政権				
4	「国民主権」② 法の下での平等 男と女				
5	精神的自由権① 表現の自由				
6	精神的自由権② 思想と良心の自由				
7	精神的自由権③ 信教の自由				
8	経済的自由権 職業の自由				
9	人身の自由 裁判員制度について				
10	社会権① 教育権				
11	社会権② 生存権				
12	平和主義①				
13	平和主義②				
14	日本国憲法の未来				
15	まとめ				
教科書	初宿・高橋・米沢・棟居著『いちばんやさしい憲法入門〔第4版〕』有斐閣アルマ、2010年。				
評価方法	出席（40%程度）とレポート提出ないし筆記試験（60%程度）により行う。発表担当者等は相応の積極的評価をする。リアクションペーパーを課す場合もある。				
特記事項	授業中の私語、携帯電話使用等は禁止です。				

科目名	法学Ⅱ		担当者	井川 昭弘	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>この授業では法思想史について学びます。法哲学および法思想史は法学の分野のなかでは最も理論的・抽象的な分野と考えられていますが、非常に興味深い分野であり、何よりも国家と社会、法、そして人間とその文化について考える上で大きな示唆を与え続けてくれています。</p> <p>授業では西洋法思想史の、古代ギリシャから近代に至るまでの主要思想家を取り上げたいと思います。それぞれの思想家のおかれた背景に着目しつつ、その思考のユニークさに注目して行きたいと思います。</p> <p>また、授業が抽象的・哲学的な思考の訓練の場にもなることを期待しています。</p>				
授業の準備について	<p>毎回、教科書の該当箇所に通して参加することを希望します。発表者を決めて、各回の思想家について発表してもらう予定です。</p>				
授業内容					
1	法哲学と法思想史について				
2	古代ギリシャ① ソフィストとソクラテス				
3	古代ギリシャ② プラトン				
4	古代ギリシャ③ アリストテレス				
5	ヘレニズム時代 ストア派				
6	ユダヤ教とキリスト教				
7	教父アウグスティヌス				
8	スコラ学者トマス・アクィナス				
9	中世末期から近代へ				
10	近代自然法論① ホッブズ				
11	近代自然法論② ロック、モンテスキュー				
12	近代自然法論③ ルソー				
13	理性法思想① カント				
14	理性法思想② ヘーゲル				
15	まとめ				
教科書	後日指定いたします。				
評価方法	出席（40%程度）と筆記試験ないしレポート（60%程度）により行う。リアクションペーパーないし小テストを課す場合もある。				
特記事項	授業中の私語、携帯電話使用等は禁止です。				

科目名	人間関係論		担当者	大谷 佳子	
コース・学年	1 - 2 年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	この授業では、演習(体験的学習)を行いながら、人間関係やコミュニケーションについて学習します。また、演習の中で自ら気づいたことを心理学的・行動科学的な理論に基づいて考察することにより、自己理解・他者理解を深め、日常生活で役立つ対人関係能力を養うことを目的としています。				
授業の準備について	受講前の準備学習は特にありません。受講中に予習や準備学習が必要な場合は、各授業のなかで伝達します。				
授業内容					
1	対人態度：基本的対人態度インベントリーの作成と分析（演習）				
2	対人認知：「自分」からみた「相手」				
3	対人認知：対人認知の傾向				
4	対人感情：対人認知と対人感情の関係				
5	対人感情：好き・嫌いの諸条件				
6	自己認知：「自分」からみた「自分」				
7	自己認知：自己概念の形成				
8	自己認知：エゴグラムの作成と分析（演習）				
9	交流分析に基づく有効な関係と無効な関係（演習1）				
10	交流分析に基づく有効な関係と無効な関係（演習2）				
11	他己認知：「相手」からみた「自分」、性格フィードバック（演習）				
12	対人関係能力：コミュニケーション能力				
13	対人関係能力：アサーション				
14	対人関係能力：基本的構えと交流様式				
15	まとめ				
教科書	毎回プリントを配布します。				
評価方法	試験 50%、演習への参加 30%、提出物 20%				
特記事項	演習を多く行いますので、受講学生数を限定します。				

科目名	心理学 I		担当者	岡田 啓子	
コース・学年	1 - 2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>初めて心理学を学ぶ学生を対象に心理学が何を問題とし、どのような方法でその問題にアプローチし、どのような知見を得たのかを学ぶことを通じて、「心理学とはどのような学問か」を理解し、心理学の基本的な知見を身につけることを目的とする。</p> <p>本講義では、人間のこころの働きである「認知活動のあり方」と、それが社会生活においてどのように機能していくのかについて学ぶ。次に、人とのコミュニケーションを通してみられる人間関係について理解を深める。</p>				
授業の準備について	テーマごとに講義を進めるので、自発的にノートに取りまとめること。				
授業内容					
1	はじめに：心理学の研究領域				
2	行動				
3	感覚と知覚				
4	学習と記憶				
5	言語と思考				
6	感情				
7	動機づけ				
8	まとめテスト 1				
9	社会的認知 1				
10	社会的認知 2				
11	対人関係				
12	自尊心と感情				
13	ノンバーバルコミュニケーション				
14	社会の中の人間				
15	まとめテスト 2				
教科書	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編 『よくわかる心理学』 ミネルヴァ書房				
評価方法	出席および授業内のリアクションペーパーや参加態度 40% まとめテスト 60%				
特記事項	特になし				

科目名	心理学Ⅱ		担当者	岡田 啓子	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	後期・2
授業の目標	<p>心理学Ⅰでは人の認知的活動や思考、また他者とのやりとりを中心に取り上げたが、本講義では人の内面としての理解や発達を中心に取り上げ、「人とは何か」について学ぶことを目的とする。</p> <p>まず、人の発達やパーソナリティについて学ぶ。その後、「こころ」の機能について学習した後、臨床心理学としての視点を基に、自分のこころへの気づきを通して、他者への理解を深める。カウンセリングの基礎理論からは、「相手の話を聴くこと」「自分を伝えること」といった人との関係のあり方について、ロールプレイなどの演習を通して理解を深めていく。また、事例検討を通して、生涯発達における各段階で課題とされる事柄とそのためにより必要とされる人との関わりについて、参加者による意見交流を行いながら考えていく。</p>				
授業の準備について	<p>連続性のある講義のため、極力欠席を控えること。 また、事例検討やロールプレイでは参加者の積極的な講義への参加を求める。</p>				
授業内容					
1	オリエンテーション				
2	人の発達 1				
3	人の発達 2				
4	人の発達 3				
5	人の発達と家族				
6	パーソナリティ				
7	まとめテスト 1				
8	こころのモデル				
9	カウンセリングの基礎理論				
10	事例検討「児童期の発達課題」				
11	事例検討「思春期の発達課題」				
12	事例検討「成人前期の発達課題」				
13	事例検討「成人後期の発達課題」				
14	事例検討「老年期の発達課題」				
15	まとめ				
教科書	無藤隆・森敏昭・池上知子・福丸由佳編 『よくわかる心理学』 ミネルヴァ書房 その他講義内にてプリントを配布する				
評価方法	出席および授業内のリアクションペーパーや参加態度 30% まとめテスト 40% レポート提出 30%				
特記事項	特になし				

科目名	環境論		担当者	金子 千里	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	前期・2
授業の目標	<p>46億年前に誕生してから、長い年月を掛けて現在の美しい地球があります。 約69億人の地球に住んでいる一人として、今、急速に進行している地球温暖化をはじめ、地球に起きているさまざまな環境問題について学びます。 また、自分の生活におよぶ色々な環境問題について学び、50年後の地球環境と自分の生活を想定してみて、みんなで今後の対策について考えましょう。</p>				
授業の準備について	日頃から、TV、新聞などで 環境についての知識を深めましょう				
授業内容					
1	地球温暖化で、水没の危機にある国は何処？ 感染症は広がる？				
2	日本の目標：25%二酸化炭素削減は可能？ これからのエネルギーについて考えます				
3	オゾン層の破壊－紫外線から身を守るには？				
4	酸性雨の影響－胃液はレモンと同じ酸性？				
5	環境ホルモンとは？ 子育てを放棄する鳥				
6	野生生物の減少－北海道のナキウサギは守られた？				
7	熱帯林の破壊と砂漠化－エマージングウイルスの登場				
8	人口増加と絶対的貧困 最低の生活費は？				
9	原子力発電の燃料は何でしょうか？ 放射線と電磁波－携帯電話の安全性は？				
10	有害廃棄物－ダイオキシン、アスベストは身近にありますか？				
11	各国の取り組み－ドイツ、北欧、アメリカの例				
12	毎日ゴミを何グラム出していますか？ そのゴミは何処へ行くのでしょうか？				
13	地球に優しいグリーンコンシューマーになりましょう！				
14	総合問題				
15	前期のまとめ				
教科書	五訂 地球環境キーワード事典 地球環境研究会編集 中央法規出版株式会社				
評価方法	レポート（10点）、試験（80点）、出席状況（10点）を含めて総合的に評価				
特記事項	特になし				

科目名	スポーツ生理学		担当者	越部 清美	
コース・学年	1 - 2年	必・選	選	期間・単位数	集中I期・2
授業の目標	<p>私達は、日頃特に意識しなくても走る、跳ぶなどの身体活動を行っているが、身体内部では複雑な仕組みが働いている。「スポーツ生理学」では、人間の身体運動の生理学的メカニズムを学び理解し、生きる上での自分の「からだ」との向き合い方について考えていくことを目的とする。具体的には、身体運動発現の生理学的しくみ、運動時の人体諸器官に与える生理的効果（トレーニング効果）を主体とするが、正しいダイエット方法、呼吸法など日常生活に応用できる実践例を含めながらわかりやすく授業をすすめていきたい。</p>				
授業の準備について	指示されたプリント類を事前に読んでくること。				
授業内容					
1	生きるとは何か（1）				
2	生きるとは何か（2）				
3	女性とスポーツ（1）				
4	女性とスポーツ（2）				
5	運動を成立させる背景				
6	運動を発現する機能（1）				
7	運動を発現する機能（2）				
8	運動を支配する機能				
9	運動を維持させる機能				
10	運動と栄養				
11	運動処方				
12	運動処方の実際（トレーニング効果、トレーニング法）				
13	運動と適応				
14	発育発達と運動能力				
15	纏め				
教科書	なし				
評価方法	レポート10%、毎日課する小テスト40%、期末テスト50%				
特記事項	特になし				

科目名	スポーツ実技			担当者	公文 暉巴	
コース・学年	1－2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2	
授業の目標	<p>体育での身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深めると共に、健康の保持増進、体力の向上を図る事により、心身ともに健康的で、幸福な大学生活が送れるように自覚させたい。</p> <p>各種スポーツの技術・ルール、及びマナー等を理解して知識を深め。積極的にゲームや運動に参加し、生涯にわたって健康と体力を維持・向上するための知識・行動を身につけ、明るく豊かなライフスタイルを形成できる能力を身につける。</p>					
授業の準備について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回の授業内容を調べる(スポーツ種目の技術やルール等) ・ 自らの生活習慣を観察し、食事・休養・運動などをチェックし、健康管理に留意し体調を整え元気で出席できるよう心がける。 					
授業内容						
1	ガイダンス、身体ほぐし		1	ガイダンス、身体ほぐし		
2	体力チェック、ストレッチ、ボール運動		2	硬式テニス（復習・ゲーム・ルール）		
3	卓球（基礎技術）、フィットネス		3	硬式テニス（ダブルスゲーム）		
4	卓球（ゲーム）、フィットネス		4	ソフトバレーボール（基礎・ゲーム）		
5	バレーボール（基礎技術）		5	バレーボール（ゲーム）		
6	ソフトバレーボール(ゲームとルール)		6	バドミントン（戦術・ゲーム）		
7	バレーボール（ゲームと審判）		7	バドミントン（ダブルスゲーム）		
8	硬式テニス（ストローク・ボレー）		8	バドミントン（シングルス・ダブルスゲーム）		
9	硬式テニス（ボレー・サーブ）		9	ボールトレーニング		
10	硬式テニス（応用・戦術・ルール）		10	バスケットボール（基礎技術）3対3		
11	硬式テニス（応用・ゲーム）		11	バスケットボール（応用・ルール）5対5		
12	バドミントン（基礎技術）		12	バスケットボール（ゲーム）		
13	バドミントン（応用・戦術・ルール）		13	ドッジビー(ゲーム)		
14	バドミントン（ダブルスゲーム）		14	希望種目		
15	前期のまとめ、レポート		15	後期のまとめ、ミニレポート		
教科書	授業時にプリントを配布する					
評価方法	学習活動(出席を含む)60%、授業に対する姿勢・理解度20%、課題、レポート20%					
特記事項	<p>受講時は必ず運動着、運動靴（室内用、室外用を区別したもの）を着用すること。</p> <p>※テニスは雨天の場合、また進歩状況により種目変更になることがある。</p>					

科目名	スポーツ実技		担当者	山田 美穂	
コース・学年	1-2年	必・選	選	期間・単位数	通年・2
授業の目標	<p>現代社会においては、多くの人が運動不足による弊害の危機に直面しているといえる。例えば、生活面での物理的な便利さ・食生活の豊かさによる、肥満や生活習慣病の問題が挙げられる。</p> <p>健康で活力に充ちた人生を望むならば、その一要素として、生活の中に積極的に運動を取り入れ、主体的な活動として実践することが必要と考えられる。</p> <p>この授業では、心身共に健康維持増進の重要性を理解し、身体活動の意義・必要性について認識を高める。さらに、体への気づきと共に体を動かすことの楽しさ心地よさを体験し、生涯スポーツという考え方に立った場合、本科目による経験が活かされることを目標とする。</p>				
授業の準備について	運動着・体育館履き・タオル・水分補給となるもの				
授業内容					
1	ガイダンス	1	ボディコンディショニング		
2	ほぐしの運動	2	リズム運動(マスゲーム)		
3	ボディコンディショニング	3	リズム運動(ボール)		
4	バスケットボール(基礎技術)	4	バドミントン(基礎技術)		
5	バスケットボール(ゲーム)	5	バドミントン(ゲーム)		
6	エアロビクスエクササイズ	6	リズム運動(試験課題&創作)		
7	長縄	7	リズム運動(試験課題&創作)		
8	長縄	8	リズム運動(試験課題&創作)		
9	バレーボール(基礎技術)	9	リズム運動(試験課題&創作)		
10	バレーボール(ゲーム)	10	リズム運動(発表)		
11	エアロビクスエクササイズ	11	バスケットボール(ゲーム)		
12	ドッチビー	12	バレーボール(ゲーム)		
13	ドッチビー	13	バドミントン(ゲーム)		
14	ボディコンディショニング	14	ボディコンディショニング		
15	前期の纏め	15	後期の纏め		
教科書	必要に応じてプリント配布				
評価方法	出席 60%、授業態度(課題解決の仕方など)20%、レポート(前期)・発表(後期)20%				
特記事項					